

本論文は

世界経済評論 2023 年11/12月号

(2023 年 11 月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料
OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン販売

知識資本の時代 ：世紀末大転換と激動の 21世紀を診る

福島大学名誉教授 後藤 康夫



[著者]

関下 稔 (せきした みのる)

立命館大学名誉教授

[発行] 晃洋書房, 2023年6月

[判型] A5判, 332ページ

[定価] 本体3,800円+税

20世紀から21世紀へ、世界は二重の世界史的な革命の渦中にある。グローバリゼーションという名の世界市場革命は、グローバル資本主義を生み落とし地球全体を包摂した。インターネット革命は、万人に開かれたコミュニケーションの公共空間・インフラの形で個人の活動を解放し、新世界への通路を切り開いた。資本はこのネット空間をプラットフォームの形(GAFAM)で自己の活動領域に囲い込んだ。ハイブリット戦争も始まった。

この対抗する現実に、いかに切り込み、「解剖図」を描き、診断カルテを書き上げるのか。生きた現実の解剖のメスたるポリティカル・エコノミーの出番だ。

著者は、これまで果敢にメスをふるい、その

成果を著書11冊に積み上げてきた現状分析家。本書は、グローバル資本主義の「双頭」に切り込んだ前著『米中政治経済論』(2015年)から8年、その間の発表論文12本に、書下ろし総括論文「インターネット産業の興隆と『ニューモノポリー』の出現」を加えたものだ。その狙いは、現状分析を通して知識資本という新たな資本概念の析出にある。「具体を貫く生きた一般」, 「事物の概念的把握」という学問の王道を歩んで、ここに「理論家、関下稔」が誕生する。三つの鋭い切り口の成果だ。

最初は、知識資本を生み出す生産力基盤、根源へのボーリングだ(4章~7章)。科学史家J. D. バナールの『科学の社会的費用』に学んで、科学・基礎研究の軍事動員体制、知的創造活動の成果の知的所有権による囲い込み・知財化、科学労働者の出現を摘出する。

本論は、知識資本の典型・プラットフォームGAFAMの全体像と本質の解明だ(8章~10章)。S. ズボフ『監視資本主義』を「情報・知識商品の生産=価値増殖過程の解明」と概念規定するように、海外文献を貪欲に吸収して、「控えめな仲介者から全能の支配者にのし上がったニューモノポリー」、そして「労働力の商品化」を超える「人格の商品化」の構造を浮き彫りにする。

最後は、対抗関係から見通される反転への展望だ。地上のグローバリゼーションが起動する「草の根」民主主義のグローバルな広がり・「世界市民」と相互浸透する、人間の知的創造活動の対等・協働にふさわしいネット空間、「WWWの普及やLinuxの開発が扉を開いた万民のための真のユビキタス」という新しい民主主義だ。

本書は、冒頭に著者が長年愛読している『三国志』の曹操の言葉「壮心不已の精神」を記すとおり、生涯現役宣言書だ。

(ごとう やすお)